

(エ) 論文要旨

論 文 要 旨	
申請者氏名	于李翔
申請学位	博士 (国際開発)
主論文題目	『中国経済発展の長期分析』
Long-term Analysis of Chinese Economic Development	
主論文要旨 (邦文は4,000字以内 外国語は2,000語以内)	
〈研究目的〉	
本学位論文「新中国70年の長期経済分析：データ分析を中心に」は、新中国成立から現在	
までの70年間にわたる経済発展のプロセスを長期のデータを用いて分析し、中国の経済発	
展パターンの特徴を明らかにすることを目的としている。	
新中国が成立してから現在まで、70年の歳月が経過した。この70年間において、中国の経	
済発展プロセスは決して順風満帆ではなかった。建国より1970年代後半までは、社会主義体	
制下にある中国の経済運営は、計画経済を特徴としていた。この時代の経済発展の進捗を諸	
外国と比較すると、相対的に遅れていた。こうした経済的後進性から脱却するために、1978	
年から、改革・開放路線へと経済運営の方式を改めることになった。	
こうした経済開発の路線転換により、中国の経済システムは計画経済から市場経済へと移	
行し始めたのであった。国内経済の市場化が推進されるとともに、対外開放も進められて	

<p>いった。この対外開放を通じて、中国の対外貿易および先進諸国からの海外直接投資の受け入れが飛躍的に拡大することとなった。この背後では、国内企業の発展とそれを支える投資も拡大し、中国の生産基盤が強化されていったのであった。これにより中国経済は、過去に類例のないほどの高度経済成長を長い時間にわたり実現することができた。そして、2013年以降は「新状態」と称されるような新段階に入り、中国の経済構造は転換期に差し掛かっている。</p>
<p>上述した通り、70年間にわたり中国の経済はこの発展プロセスにおいて何度かの構転換を経験している。こうした構造転換はどのような要因によってもたらされ、そしてその後どのようなメカニズムを通して経済の発展が進んできたのかをGDP統計、貿易統計、海外直接投資統計などの各種の経済データを用いて長期の視点から中国の経済発展プロセスを分析することにする。</p>
<p>本論文は、従来の研究と比較して、長期の時系列データを用いて分析を行っている点に特徴がある。短期間のデータを用いて分析を行うこのメリットは、現状を把握する上では優れている。しかし、経済発展という長期間に及ぶ経済の構造変化を捉えようとするならば、短期間のデータでは十分に把握できない。なぜなら、データの変化が景気循環などの短期的な要因によって生じているのか、それとも大きな構造変化によって生じているのかを区別することができないからである。近年、中国の経済データの整備が進み、徐々に長期のデータを活用することが可能な環境にあり、長期分析を行えるようになってきたことから、こうした分析に着手することにした。</p>
<p><論文の構成></p>
<p>本論文は以下の5つの章から構成される。各章の分析を通じて、中国の経済発展のメカニズムの特徴を把握することにする。なお、これらの分析で用いられるデータの多くは、1950年から2020年までの期間である。</p>
<p>各章の概要は以下の通りである。</p>

<p>第1章では、中国の経済成長における産業構造の変化を分析する。この70年間において中国の産業構造は経済発展を通じて、どのように変貌を遂げてきたのかを明らかにする。GDP統計を用いて中国の産業構造の変化を追跡すると、いわゆるペティー・クラークの法則が妥当性をもつのは、改革・開放以後になってからだという結果が得られる。計画経済時代には、政策的に誘導された結果として経済発展の比較的早い段階から工業部門の比重が高く、市場経済をベースとした国の産業構造とは大きく異なる。こうした相違が成長促進的であったのか、それとも経済成長に対して抑制的であったのかをデータに基づきながら判断すると、成長促進的ではなかったと評価できる。また、本章では、近年、主要産業になりつつあるサービス産業の動向についての分析も行う。</p>
<p>第2章では、一貫して中国の経済発展の原動力であった工業部門の発展について、より詳細な分析を行うことにする。データの制約により、対象期間は1957年から2020年となるが、中国の工業部門を構成する各産業の発展を分析することにする。各産業が生産する工業製品に着目し、それらの製品がどのように生産量の拡大と縮小を迎えていくのかをデータをもとにして分析することにする。こうした工業生産物に着目することにより、各産業の技術水準も間接的に知ることが可能になる。というのは、高度な製品が生産されるようになるにつれて、その生産技術も高いレベルを求められるようになるからである。また、工業部門の発展プロセスの中で、産業の高度化が進んできたのか否かについても分析を行うことにする。</p>
<p>第3章では、建国から2021年までの70有余年の間に、中国の貿易構造がどのように変化してきたのかをGDPや貿易などの統計データを用いて実証分析を行うことを目的としている。貿易構造がどのような要因によって変化し、そしてこの貿易構造の変化が投資活動などを通じて、産業構造にどのような変化をもたらし、またそれが貿易構造にいかなる変容をもたらすのかを明らかにする。この分析を通じて、国家が主導する産業政策のもとに産業育成が進められる。そこで必要となる中間投入財や資本財の調達が入力構造に変化をもたらす。そして産業が生産活動を開始して輸出を行うようになると、それが輸出構造に変化をもたら</p>

<p>すというメカニズムを析出する。</p>
<p>てきたのかを実証的に明らかにすることが、この章の目的である。</p>
<p>第4章では、中国の経済発展において外国資本の受け入れ、特に対内直接投資が果たした役割について、データを用いながら明らかにする。本章の目的を達成する出発点として、最初に、1979年から2022年までの中国の外国資本の利用状況を概観する。外国資本は主に対外借款と対内直接投資から構成されるが、そのなかでも対内直接投資の役割が高まっていくことを確認する。次に、対内直接投資が中国のどのような産業を対象としているのか、そしてその投資対象産業が時間の経過とともにどのように変化してきたのかを分析することにする。続いて、中国の国際貿易と国内の固定資産投資における外資系企業の役割について分析を行い、経済発展のメカニズムを明らかにする。</p>
<p>第5章では、2000年以降に本格化する中国の対外直接投資の動向について考察する。中国企業の対外直接投資の増加は、中国政府が企業の対外直接投資活動を積極化させる方針を鮮明に打ち出したことが背景にある。政府がこうした指針を打ち出したということは、中国経済の発展プロセスにおいて新たな局面に入り、中国企業の対外投資活動を積極化することが、中国経済の持続的な発展にとって望ましいということの表れである。そこで、本章では、中国企業の対外直接投資が中国の経済発展にどのような効果をもつのかを明らかにしていくこととする。そこで最初に、1979年の「改革・開放」期から現在までの中国企業の対外直接投資活動がどのように推移してきたのかをデータを観察しながら概観することから始める。この分析から、中国企業の対外直接投資活動が段階的に進められ、各時期の特徴を明らかにする。そして、中国企業の対外直接投資の投資対象国、対象業種、地域特性などの検討を通じて、対外直接投資の特徴を明らかにしていくこととする。続いて、中国政府が中国企業の対外直接投資を促進する政策を打ち出した背景について検討を加える。そして最後に、</p>
<p>一带一路沿線諸国に対する中国の対外直接投資の現状についてみていくこととする。</p>
<p>そして終章では、本論文の結論を示す。</p>

<研究結果>

本研究の構成は上記の通りである。各章の研究を通して、中国の経済発展メカニズムの解明を行った。中国は、1960年代に入り、工業化政策を積極的に推し進めてきた。政府主導による工業化政策の実施により、中国の産業基盤が形成されたのである。こうした産業基盤をもとにして、1979年の改革・開放政策を展開することができたのである。この政策により、国際貿易の門戸が開放され、さらには先進国外資系企業による海外直接投資を受け入れが拡大した。貿易や直接投資の経路を通じて、中国経済が世界経済との結びつきを深めてきた。このプロセスにおいて、中国経済においても市場競争圧力が高まり始めた。こうした競争圧力が中国企業の生産効率を高め、生産性の向上に寄与したのである。中国が「世界の工場」と称される段階にまで到達できたのは、こうした競争環境のなかで中国企業が新しい技術や経営手法を取り入れたからである。また、中国が比較優位性をもつ労働集約的な産業から生産と輸出を拡大したことが重要であった。

こうして工業部門を中心に発展してきたが、2000年代後半から中国経済のサービス化が進行し始めた。これにより情報通信関連の製造業分野が成長産業となり始めている。情報通信関連産業は、いまや世界的な先端産業である。中国政府は、情報通信関連技術の研究・開発を重要視しており、積極的支援策を行っている。いまや、中国経済はデジタル・エコノミーという発展段階にまで到達した。こうした経済発展を遂げることができたのは、中国が世界経済への統合度を深め、市場競争を活用することができたからである。中国が、今後も持続的な経済発展を遂げていくには、世界経済に門戸を開放して市場競争のメカニズムを有効活用することが重要である。

以 上